

遠隔操作型ロボットとロボット社会

石黒浩

大阪大学基礎工学研究科教授(特別教授)

ATR 石黒浩特別研究室室長(ATR フェELLOW)

産業用ロボットに続いて、日常活動型ロボットの研究開発が盛んになりつつある。日常活動型ロボットの開発目的は、人間とコミュニケーションしながら人間の日常生活を支援することであり、人間と人間らしく関わられる機能が必要不可欠である。そうした日常活動型ロボットは、テレビ会議と移動台車を組み合わせた簡単な遠隔操作型ロボットとして、米国を中心に実用化され始めている。一旦実用が始めれば、改良が積み重ねられ、遠隔操作型ロボットの自立化が進むとともに、より人間らしくなると期待される。本講演では、実用化に近い遠隔操作型ロボットから、人間に酷似した人間理解のためのロボット研究に至るまでの幅広い研究について紹介するとともに、来たるべきロボット社会について議論する。

Teleoperated robots and the robot society

Hiroshi Ishiguro

Department of Systems Innovation, Osaka University

ATR Hiroshi Ishiguro Laboratory

Development of everyday robots is getting more active following industrial robots. The purpose is to support our daily life by using the communicative functions. Practical use of the everyday robots starts with very simple teleoperated robots consisting of TV conference systems and mobile platforms. Then, they will be improved and become more humanlike. This talk will introduce various humanlike robots and discuss on our future with the robots.